



実際に地域医療に従事して感じたこと。

庄原赤十字病院 腎臓内科 國原 蒼士

庄原赤十字病院 腎臓内科専攻医2年目の國原蒼士と申します。広島県の呉市出身で中学高校は広島学院中学高等学校、大学は広島大学出身です。父が歯科医師で自然と医療の世界に触れて育ちました。また、自分が小さい頃に手術を受けた際に、医師をはじめとする医療従事者の方々に尊敬の念を抱き、医師を志しました。生まれ育った環境や祖父母の家が比較的へき地であったこと、お世話になった広島県に貢献したいという思いから高校生の時に地域医療に興味を抱き、広島大学医学部のふるさと枠を利用して医師となりました。

大学卒業後は市立三次中央病院で初期研修を行いました。三次中央病院では幅広い症例を経験しながら、医療知識・技術の基礎や医師としての人との接し方をはじめ、さまざまなことを学びました。魅力的な指導医の先生方に囲まれ、多くの診療科で研修を行いました。その中で、慢性腎臓病をはじめとする生活習慣病の治療や、透析患者様の全身管理に興味を抱き、また、シャント造設術やシャントPTAといった手技の面白さに触れ、腎臓内科の道へ進むことを決めました。

初期研修終了後は内科専攻医1年目として庄原赤十字病院で一般内科医/腎臓内科医として勤務を開始しました。庄原赤十字病院は広島県

北部の中山間地域に位置し、広範囲なエリアの医療を担っている基幹病院です。高齢化が進むこの地域では、複数の慢性疾患を抱えた高齢者が多く、医療ニーズも多岐にわたります。とりわけ腎臓病は高血圧や糖尿病などとの関連も深く、早い段階で発見し、生活習慣の改善や適切な治療介入を行うことで透析導入を予防することが可能です。だからこそ、地域の健康を守る存在としての腎臓内科の役割はとても重要だと感じています。また、実際に現在働いている中で特に地域医療では患者様一人一人の生活背景や家庭環境、交通手段といった個別性を考慮する必要があります。疾患に対する治療だけでなく「どう暮らしていくか」という視点を持った医療が必要であることを実感しています。庄原市内のクリニックの減少などの理由から退院後も外来フォローを継続させていただく患者様が多く、急性期の治療から慢性期の管理まで多彩な経験を積むことで内科医としての成長を実感しております。

成長させてもらった地域に恩返しできるよう、今後も謙虚な気持ちを忘れずに学び続け、医師として成長できるよう努力してまいります。まだまだ未熟な身ではございますが、これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

広島県最低賃金が変わりました

(令和6年10月1日から)

☆ 時間額 1,020円

特定の産業で働く労働者については、広島県最低賃金よりも金額の高い特定（産業別）最低賃金が適用される場合があります。

お問い合わせ先

広島労働局労働基準部賃金室（TEL：082-221-9244）または最寄りの労働基準監督署へ
広島労働局HP：<https://jsite.mhlw.go.jp/hiroshima-roudoukyoku/>